

津軽白神 ふれあい通信

津軽白神森林生態系
保全センター

平成26年7月発行 No.98



オオウバユリ

自然再生活動を開催しました

6月28日(土)、7月26日(土)の両日、鱒ヶ沢町の東赤石山国有林内で、一般公募による第一回、第二回の自然再生活動を実施しました。

自然再生活動とは、白神山地周辺に分布するスギ人工林について、時間をかけて元の広葉樹林に戻していこうという取り組みで、当センターをはじめ多くのボランティア団体も取りくんでいます。

6月28日の天候は晴れ。13人の方々が参加して苗木の採取と仮植を行いました。苗木の採取箇所は白神ライン沿いの路肩から、ブナやイタヤカエデなどの広葉樹約200本を採取しました。

この日は6月も下旬となり汗ばむような天候に加え、スコップを持っての作業となったため、参加者の皆さんは「暑い暑い…」の連発でした。

午後からは、「奥赤石ブナ遺伝資源保存林」を散策しました。

この箇所は、世界自然遺産地域の区域ではありませんが、遺産地域内と同様な林相の箇所、過去に伐採された記録が残っておらず原始的なブナの林が広がっている区域です。参加者の皆さんは担当者の説明に聞き入りながら、ブナの巨木に感嘆しきりでした。

7月26日も晴れで、この日は青森市内からはもとより、宮崎県、群馬県からの2名を含む15名の方々が参加しました。

採取予定箇所には目立った稚樹が見当たらず心配しましたが、いざ探して見たところ多くの苗木を採取することができました。

午後からはくろくまの滝までを散策しました。夏の暑い日でしたが滝の近くまで行くと水しぶきも飛んできて、清涼感いっぱいでした。



暑い中での作業でした



遺伝資源林の散策のようす



あ、ここにもあるわよ



滝をバックに記念撮影

「白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川」に参加



6月29日（日）鱒ヶ沢町の赤石川上流域にある東赤石山国有林において、白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川実行委員会の主催による植樹祭が開催されました。

今年は東北森林管理局から局長をはじめとする職員らが参加し、植樹指導や植樹の手伝いをしました。

当日はあいにくの雨天となりましたが、苗木にとっては恵みの雨でした。参加者の皆さんは雨合羽を着用

しながらブナの苗木を丁寧に植え付けていきました。

青森市内の大学からは海外からの留学生も多く参加し、泥まみれになりながらも「今日は楽しい」と言いながら植樹作業を楽しんでいました。

当センター職員も植樹の手伝いができたり、坂道を登る留学生の手をとりサポートしながら歩いたり、貴重な体験をすることができました。



ユネスコ協会育樹祭に参加しました

7月5日（土）、日本ユネスコ協会連盟主催の育樹祭が開催され、当センターからも職員が参加しました。

この取り組みは、平成20年から日本ユネスコ協会が三菱UFJフィナンシャルグループの協力を得ながら植樹活動を行ってきたものであり、平成24年に植樹10万本を達成したことから平成25年以降は、育樹作業として下刈りを実施することとしたものです。

当日は、全国から三菱UFJフィナンシャルグループの社員40名が集まり、下刈り作業に汗を流しました。

作業開始にあたり、安全に作業ができるよう神事が執り行われました。その後、普段はデスクワークをしている社員の方々は慣れない野外での作業に苦心していましたが、森林管理署職員・OBの方々の指導を受けながら刈り進んでいきました。

作業が終わる頃には、ブナやホオノキなどの広葉樹が頭を出し、一日の労働の成果を確認することができました。



日本山岳会青森支部白神山地ブナ林再生活動

6月28日（土）から29日（日）まで、日本山岳会青森支部は白神山地世界遺産地域周辺の国有林において、ブナ林再生活動を実施しました。

この活動は、自生する高木広葉樹の生育を促すことにより、自然の遷移を主体的にブナ林を再生させようという活動です。

当センターでは、同支部の依頼により、下草刈り等の作業に先立ち当センター所長から、作業の注意事項や足下の確認、接近作業の禁止等の安全指導が行われました。

同支部では、平成11年から毎年継続的に活動されており、当センターでは息の長い活動に対し引き続き支援して参ります。



センサーカメラを設置しています

近年全国各地の森林や農地で甚大なニホンジカの被害が発生し、深刻な問題になっています。幸い青森県内では、ここ数年ニホンジカを目撃情報はあるものの、大規模な食害が発生したという事例は確認されていません。

しかし、昨年には白神山地世界遺産地域まで十数キロの地点でニホンジカが定点カメラに撮影されており、世界遺産地域へのシカの侵入による植生や生態系への影響が懸念されるため、当センターにおいてもニホンジカ監視強化のためにセンサーカメラを設置いたしました。

現在のところ、幸いにしてニホンジカは撮影されていませんが、白神山地の生態系を構成する動物が撮影されています。

その中から代表的な動物をご紹介します。





コテングコウモリは森林に生息するコウモリで、比較的ゆっくりと飛翔し昆虫類を捕食します。

○コラム 国民の祝日「山の日」(8月11日) 制定について



平成28年から8月11日を「山の日」とする祝日法改正案が通常国会に超党派共同提案の議員立法として本年3月に提出され、4月から5月にかけて衆・参両院の審議を経て可決・成立しました。

同法は山の日を「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」と定めています。

森林などに親しむレクリエーション利用はもとより、国土の保全や水源のかん養、地球温暖化防止、生物多様性の保全、木材の安定供給など山の恩恵は多大です。

一方、山は落石や滑落、樹木の枝の落下、落雷、蜂や熊など様々な危険が潜んでおり、自己責任の側面があることを常に意識し、安全対策を怠ることなく、感謝の念を忘れずに、その上で美しい景色、可憐な花、野鳥のさえずり、木のぬくもり、山菜、キノコなどの香りや味覚を存分に楽しみたいと思います。(I)



津軽白神森林生態系保全センターホームページ

<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/tugarusirakami/index.html>